令和 7 年度 熊取町教育支援センター「みっけ」活動概要版

1. センターのあゆみ

増加する不登校児童・生徒への支援体制強化と、学校外の「もう一つの居場所」確保をめざし、令和 6 年度に教育・子どもセンター内に開設した。

令和 6 年度：週 2 日で運用開始。子どもが「自分を見つける」支援拠点がスタート。
令和 7 年度：大阪府教育研究所加配教員（センター長代理）が配属され専門体制を強化。ひまわりバスの停留所新設によるアクセス改善や、開設日を週 5 日に拡充し、支援の幅を大きく広げた。

2. 基本理念・方針

コンセプト：「自分を見つける自立支援」（3 つの K：「気づく・きめる・かかわる」）
方　　針：学校復帰のみをゴールとせず、一人ひとりが体験を通して自信を育み、社会的自立へ踏み出せるよう、教育・福祉・心理が連携した総合的な支援を行う。

3. 指導体制（令和 7 年度）

センター長（1 名）、担当指導主事（1 名）、センター長代理・府加配教員（1 名・週 5 日）、主任指導員（1 名）、支援員（2 名）に加え、臨床心理士、学習支援ボランティア（11 名）、インターンシップ学生が協力し、手厚い支援体制を構築している。

4. 主な活動内容

① 学習支援	個別最適な学習（プリントやタブレット等）に加え、振り返りの習慣化や学期ごとの表彰などを通じて達成感を積み重ねる。
② 体験活動	図書館訪問、ベランダでの野菜栽培・メダカ飼育のほか、スポーツ体験、クッキング、ブルーベリー狩り、藍染め体験、ピザ窯体験、お別れ遠足など、豊かな体験と地域交流を実施した。
③ 心理・相談支援	臨床心理士による面談（年 18 回）を実施し、児童生徒および保護者の不安解消をサポートした。
④ 保護者支援	密な連絡調整や定期的な懇談、家庭訪問などにより、家庭と一体となった支援を行った。

5. 実践事例と主な成果（まとめ）

「みっけ」での多様なアプローチを通じて、子どもたちはそれぞれのペースで大きな成果を上げている。

【段階的な登校・学校復帰の実現】

安心できる居場所での受容的な支援と、学校との密な連携（給食や行事等からの参加）により、無理のないペースで登校日数が増加。卒業式出席や、中学校での安定した学校生活（部活動等）につながった。

【興味関心を起点とした自信の回復と社会的自立】

本人の特性や得意なこと（個別学習やスポーツ等）に寄り添った支援を通じて自己肯定感が向上。コミュニケーション力の改善や、希望する高校への進学（全日制・通信制）などの進路実現を果たしている。

【特性に配慮した環境調整とスムーズな移行】

集団生活に不安を抱える児童生徒に対し、個別のニーズに応じた活動や学校との協議（支援学級や新環境への移行）を実施。それぞれの進むべき道への確かな一歩をサポートした。

6. 家庭・学校等との連携

○在籍校との密接な情報共有
○全校訪問による校内支援の充実と指導助言
○加配教員を中心とした多機関ネットワークの構築
○きめ細やかな進路支援の展開
○初任者教員等への研修の実施
○域内の不登校児童生徒の把握と早期アプローチ
○「教育支援センター通信」の発行による啓発
○ケース会議への積極的参画

7. 今後の展望

令和 7 年度は専門体制の充実により不登校児童生徒数が減少に転じるなどの成果が見られた一方、今後は以下の方向性で取り組みをさらに深化させていく。

○「自分らしく」いられる居場所のさらなる拡充（利用時間の柔軟化など）
○ICT を活用した支援の充実と LACO（大阪府不登校支援センター）との連携強化
○校内教育支援ルームの機能充実と学校支援の強化
○孤立した子どもたちへのアウトリーチと町全体の支援ネットワークの一層の強化